



2019年10月31日

各 位

上場会社名 株式会社三栄コーポレーション  
 代表者 代表取締役社長 小林敬幸  
 (コード番号 8119)  
 問合せ先責任者 財務部長 小平敏之  
 (TEL 03-3847-3500)

## 2020年3月期第2四半期業績予想と実績の差異および 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年5月15日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 業績予想の修正について

(1) 2020年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績との差異 (2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,000	150	150	20	8.53
実績値 (B)	20,941	627	656	205	87.33
増減額 (B-A)	△59	477	506	185	
増減率 (%)	△0.3	318.0	337.3	925.0	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	20,842	29	107	△12	△5.26

(2) 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,000	1,000	1,000	500	213.25
今回修正予想 (B)	43,000	1,100	1,100	500	211.91
増減額 (B-A)	—	100	100	—	
増減率 (%)	—	10.0	10.0	—	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	42,513	752	827	195	82.99

(3) 2020年3月期第2四半期(累計)個別業績予想と実績との差異(2019年4月1日～2019年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,500	50	10	4.27
実績値 (B)	12,521	426	288	122.69
増減額 (B-A)	1,021	376	278	
増減率 (%)	8.9	752.0	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2019年3月期第2四半期)	11,117	263	158	66.90

(4) 2020年3月期通期個別業績予想数値の修正(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,000	400	200	85.30
今回修正予想 (B)	24,000	550	350	148.33
増減額 (B-A)	—	150	150	
増減率 (%)	—	37.5	75.0	
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	23,722	349	△127	△52.83

## 2. 修正の理由

(1) 第2四半期(累計)期間連結業績予想ならびに個別業績予想の実績との差異理由

連結業績では、売上高はほぼ期初予想通りとなりました。

利益面では、家具家庭用品事業セグメントおよび服飾雑貨事業セグメントにおける売上伸長による売上総利益の増加に加えて開発費などの後ろ倒しや経費全般の抑制が進んだことから、営業利益、経常利益ともに予想を大幅に上回る結果となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、繰延税金資産の一部取崩しによる法人税等調整額の計上はあったものの、経常利益の増加により予想を上回る結果となりました。

個別業績では、家具家庭用品事業セグメントおよび服飾雑貨事業セグメントの売り上げが増加しました。

利益面では、売上増加および売上総利益率の改善により、経常利益および当期純利益が予想を大幅に上回る結果となりました。

(2) 通期連結業績予想ならびに個別業績予想の修正理由

連結業績では、売上高はほぼ期初予想通りと見込んでおります。

利益面では、下期においては OEM 事業・ブランド事業共に価格競争の激化を背景として利益率の低下や開発費など次期に向けての先行投資費用等を見込んでおり、結果として、通期予想では営業利益、経常利益ともに 100 百万円の増加に留まると予想しております。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、繰延税金資産の一部取崩しによる法人税等調整額の計上を主因として、修正はせず 500 百万円と見込んでおります。

個別業績では、売上高はほぼ期初予想通りと見込んでおります。

利益面については、下期においては価格競争の激化を背景として利益率の低下や次期に向けての先行投資費用などを見込んでいること、および子会社からの配当金の減少などを想定し経常利益および当期純利益は共に 150 百万円増加に留まると予想しております。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な要因により実際の業績は異なる結果となることがあります。

以上